



狭山ヶ丘通信

本校の実情をお知らせし、教育問題、社会問題等に関する本校校長小川義男の見解などをお読みいただくため「狭山ヶ丘通信」を発行いたしております。また、本校ウェブサイトにてバックナンバーもご覧いただけます。https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/ 〒358-0011 埼玉県入間市下藤沢981 TEL:04-2962-3844 FAX:04-2962-0656 狭山ヶ丘学園 広報部

努力すれば勝てる



狭山ヶ丘高等学校
狭山ヶ丘高等学校附属中学校
校長 小川義男

いよいよ新年度 新学期です。本校では、ほぼ全員が大学に進学しますので、どの大学に入り、今後の人生を選ぶか、大切に難しい問題になってきます。中学生、高校生共に深く考え、決意を固めて、悔いなき一年にしていきましょう。

進路選択の難しさは、未だみたことのない人生を、自ら選択しなくてはならないところにあります。「人生を知らずに、人生航路を選択する」のですから、その難しさは諸君にも分かると思います。そこで大切なことは、「良き友、良き先輩」の指導を得ることです。人生の先輩である「親」や「教師」の言葉に耳を傾け、言動、姿勢に学ぶことも大切です。

思春期は自我も強く、反抗的な思考、態度をしてしまうこともあるでしょう。またそれも、大切なことでもあるのですが、この若い時期の思考や経験で、将来の、人生の相当部分が

決まってしまうのです。

しかし、自らの人生に決定的影響を及ぼす「進路選択」を決める思慮も、知識も持っていない。「選択できるときには判断できず、判断できるときには選択できない」と、私は思います。

皆さんの身近の人で、このことに適切なアドバイスができるのは、父親、母親であるかも知れませんが、皆さんをよく知り、幼い頃に何に興味を持っていたか、を覚えており、社会で実務経験のある、最適な相談先かもしれません。私の人生も、言ってみれば進路選択の過ちに充たされていたように思います。

今の私にはそれが分かります。でも今の私に新しい選択ができるでしょうか。もっとも私は「ものかき」でもありませんから、失敗に充ちた人生を、著作に結実させていきたいと思います。

しかし皆さんは、今まさに「青春真っ只中」なのですから、大いに悩み、苦しみ、学校生活を楽しんでください。

「青春 再び帰らず」——精一杯頑張ることにしましょう。

何よりも担任の先生、教科の先生の何気ないひと言に耳を傾けることをしてください。

進路選択、勉強の仕方について

は、私にも相談して下さい。私も多忙の身ですから、相談は複数で来てくれることを望みます。

勉強は授業中心、教科書中心が最も効率的なように思います。

優秀な人のノートは美しく素敵です。高校生の頃、中川君という秀才がいました。旧制中学校に、彼は一浪で入ってきました。猛烈に勉強し、見る間に優等生になりました。彼のノートは、美しく見事に整理されており有名でした。しかし、誰にも見せません。自転車も貸しません。ところが、ノートが下手な私には貸してくれるし、自転車も貸すどころか、後ろに乗せ、どこへでも行ってくれるのです。私はその理由を尋ねました。

「俺は、小川を尊敬しているからな」と、彼は言ったのです。彼は、北海道新十津川に住んでいることは知っていたので、卒業後、暫振しばらぶらに会いに行ったら、亡くなっていました。国政にも出られるほど優秀で人格者だったのに、本当に惜しいことでした。

彼から、勉強のことは勿論、様々なことを教えてもらい、一緒に学びました。友達も、進路選択に関しても、大切な情報源です。

授業に集中する上で、最も効率的な手段は予習だ、と私は思いま

す。予習をしっかりやっていたら、必ず集中でき、学力もついてきます。「学校嫌い」など吹っ飛んでいいと思います。

テレビやネットも大切な情報源ですが、読書も大切です。私が尊敬する菊池寛先生の言葉に「文芸は美人生の地理歴史」があります。時空を超え古今東西の文学の世界に踏み込み、名作に触れることをしてください。

偉人に触れることも大切です。私は、ロシア小説家レフ・トルストイの「アンナ・カレーニナ」を愛読しており、トルストイの思想の深さに触れる最良の方法は、作品を読むことだと思います。作中人物の「コンスタンチン・リョーヴィン」は、トルストイ自身と言われています。

テレビやネットで映像から情報を得る手段も大切ですが、思慮深さを育てる一つの方法として、活字での読書、新聞を忘れてはなりません。私のお勧めは、島崎藤村の『藤村詩集』『破戒』、尾崎紅葉の『金色夜叉』です。

諸君の先輩で、東大その他の超難関に進んだ彼らに共通することは、新聞をよく読む読書家だったことです。簡単な本でも良いです。参考にしてください。

この一年、諸君が、大きく羽ばたいてくれることを期待しています。

Web版は個人情報保護の観点から一部情報を掲載しておりません。

学校説明会のご案内

「気になる」が 「なるほど!」に かわりました



コース・クラブ・学校生活・学費
のこと、本校について
ほんの少しでも「気になる」ことがあれば、
ぜひ説明会にお越しください。
本校教員が、どんなことでもお答えします!



高等学校

説明会はWEB予約優先
(当日参加可)

個別相談が説明会後にあります(個別相談は予約不要です)

受験に向けて本格的に準備をスタート
していく夏休み前に、ぜひ本校を知っ
てください! 説明会のあとは、個別
相談を行っています。



第1回 10:00 ~ 11:30 **7月28日** (日)

今後の開催日 【第2回】8月25日(日) 【第3回】9月22日(日・祝)
各回10:00~11:30 【第4回】10月27日(日) 【第5回】11月23日(土・祝)

高等学校個別相談会 **全3回** ※個別相談のみです。(WEB予約不要)
※スクールバスの運行なし。

第1回 12月14日(土) 9:00~12:00
第2回 12月21日(土) 9:00~12:00
第3回 12月26日(木) 9:00~12:00

主なご相談内容

- 入試について
- 進路について
- 高校生活への不安
- クラブについて
- 授業内容について
- 学費について



最新の情報は本校ホームページをご覧ください。

付属中学校

説明会は
WEB予約優先
(当日参加可)

個別相談が説明会後にあります(個別相談は予約不要です)

体験授業や校内見学、在校生の座談会
など本校のことを知っていただけるイ
ベントをご用意しております。



第1回 10:00 ~ 11:30 **7月15日** (月・祝)

今後の開催日 【第2回】9月8日(日)10:00~11:30 【第3回】10月5日(土)14:00~15:30
【第4回】11月2日(土)14:00~15:30 【第5回】11月30日(土)14:00~15:30

付属中学校オープンスクール

WEB予約制

8月24日 (土)
10:00~12:30

昨年度は、国語・算数・英語・理科・社会に加えて、家庭科(調理実習)と情報の体験授
業を行いました。今年度も実際に体験していただけるイベントをご用意いたします。



ご予約や資料請求は、本校ホームページで!

<https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>



学校見学 事前にお電話でご予約ください。

WEB予約 開催日3週間前の午前9時から、3日前までの受付です。

お電話

TEL 04-2962-3844

(平日午前9時~午後5時)

吹奏楽部 第47回定期演奏会のご案内

2024年6月16日(日) 14時15分開場 15時開演

所沢市民文化センターミューズ アークホール

入場無料

事前に、電子チケットサービス「teket(テケット)」で入場整理券の
お申し込みをお願いします。詳細は、本校ホームページをご覧ください。



2024年度の 大学入試を 振り返って

進路指導部長 市成 敏明



本校の2024(令和6)年度大学入試合格実績の詳細は本校ホームページにて公開しておりますので是非ご覧ください。特筆すべきものは、**2年連続で東京大学に2名の現役生が合格した**ということです。これは本校初のことで、これまでの進路指導が結実したものです。

本年度の大学入試にはいくつかの特徴がありました。1つ目は、昨年度まで講じられていた新型コロナウイルス感染症に関わるイレギュラーな対応がほとんど無くなり、通常に限りなく近い形の入試が行われたことです。私たち教員の経験が活かしやすくなり、生徒たち

へ適
受験
す。1
争緩
前年
から
試が
受験

2024年度

合格体験記

2024年度
大学入試合格



スポーツ・文化進学コース(IV類)

中央大学
文学部人文社会学科

その他の
合格大学

日本大学経済学部
駒澤大学経済学部
東京経済大学経済学部



総合進学コース(III類)

早稲田大学
人間科学部人間環境科学科

その他の
合格大学

中央大学国際経営学部・商学部
成蹊大学経営学部
東洋大学経営学部



特別進学コース(II類)

東京理科大学
先進工学部マテリアル創成工学科

その他の
合格大学

東京理科大学創域理工学部
明治大学理工学部
工学院大学先進工学部

私はずっと野球をやっていて高校でも野球部に所属していました。定期考査以外ではともに勉強したことがなく、大学へは指定校推薦で進学するつもりでした。部活が終わり夏休みになっても1日数時間勉強するだけでしたが、指定校推薦の校内選考を突破できず、そこから受験勉強を始めました。

最初は日東駒専を目指していたのですが、「どうせやるなら指定校推薦で狙っていたレベルよりも上を目指そう!」「指定校推薦で決まった人たちを見返してやろう!」という気持ちになり、中央大学を目指すことにしました。

受験の準備がほぼゼロの状態にも関わらず半年という限られた時間しかなかったので色々調べて勉強計画を立てました。英語の配点が高いのと、日本史は時間をかけることで伸びる科目なので、ほとんどの時間を英語と日本史に費やし、国語にはあまり時間を割かない方針にしました。応用よりも基礎をしっかり固める、という考えで取り組みました。過去問はほぼ中央大学だけしか解かず、一歩間違えれば浪人というハイリスクな戦略でした。

5月頃の模試の偏差値は30台で、その後の模試もE判定ばかりで思うように成績が伸びないなか、周りは推薦で決まってく様子を目にして、心が折れそうでした。けれど、中央大学へ行きたい気持ちは強く、1日約14時間、休み時間やちょっとした隙間時間も勉強しました。その結果、中央大学に合格できたので、最後まで自分を信じて諦めずに頑張った良かったと思います。

最後に伝えたいことは、自分がどんな状況であれ自分の目指す道を最後まで諦めないでほしい、ということです。良い結果が出ずに辛い時があるかもしれませんが、すぐに前を向いて最後まで努力し続けてください。ファイト!

大学受験を意識したきっかけは、高校2年生の「総合探究」の一環で夏休みに中央大学のオープンキャンパスに行ったことです。その際、国際経営学部が使う綺麗な建物や英語のみで行われる経営学の授業が面白そうだと興味をもち、漠然とこの大学にいきたい、と感じるようになりました。

本格的に受験勉強を始めたのは高2の3月からです。サッカー部に所属していたので、高3の夏休み前までは週6回の練習や試合のスケジュールの合間を縫って、なんとか1日3~4時間の学習を続け、夏休みからは毎日11時間くらい勉強しました。間違いなく自分の限界まで勉強したと思います。

受験を終えて伝えたいことは2つです。1つ目は「とにかく周りを頼ること」。皆さんは現役受験生ですから、大学受験を経験した人は1人もいません。先生や友人、受験を経験した先輩など現役生には計り知れないほど、有益な情報を持っている人たちが沢山います。加えて今はSNSなど、ネットからも学習計画や参考書についての有益な情報が手軽に手に入ります。そうした先人たちの知見をぜひ有効活用して下さい。2つ目は「死んでも受かる気持ちで挑むこと」。僕はこの受験を人生を賭けた一世一代の勝負、と思って日々取り組んできました。だからこそ、挫けそうになったときも諦めずに最後まで勉強し続けることができ、第1志望校に合格し、さらには早稲田大学の合格を手にすることができたと思っています。最終的には学びたい学問を優先して中央大学に進学しますが、学習へ志をもって臨むことで所属コースに関係なく早慶といった難関大学にも手が届くということが、皆さんの自信に繋がれば幸いです。

大学受験というのは、人生の大きな分岐点になると思います。ぜひ自分が100%の力を出して勝ち取れる進路を目指してください。

私は「この大学に行きたい!」という大学が無く、「将来これがしたい!」という職業も特にありませんでした。そんな私がどのように志望校選びをしたのか、受験勉強において何を大切にしたいのかを紹介しよう。

まず志望校選びについてです。どの学科からどのような職種に繋がるのか、調べようと思い、いくつかの大学のオンラインのオープンキャンパスに参加しました。その中で興味のある大学を見つけ、実際に大学に足を運びました。そうすることで、大学の雰囲気やどんな環境で授業を受けているのか、図書室はどのくらい広いのかなど、直に感じる事ができました。その後、授業内容や就職率、就職先なども見て私は材料系を学ぼうと決めました。

次に受験勉強についてです。受験勉強で大切にしていたのは、授業の効果的な活用の仕方です。私は物理と数学は授業をしっかり聞き、定期考査に向けて学校の問題集を最低2周はしていました。英語は基礎を固めてからは、授業が理解できるようになり、成績が格段に伸びました。ここで私が伝えたい効果的な授業の活用の仕方は、理科と数学ではインプットとして、英語ではアウトプットとして授業を利用することです。どの教科も予習することによって授業内容が定着しやすいです。ただ、理科と数学は自分で予習するには難易度が高く、かえって非効率な学習になりかねない教科です。ですから授業をしっかり聞き、手厚く復習してください。これが私が思う授業の効果的な使い方です。「授業はやっばり大事!」なんです。次は皆さんの挑戦です。ぜひ、頑張ってください!

適切なサポートをすることができました。2つ目は、18歳人口(大学受験をする年齢の人口)が急減する世代の大学入試だったことで、18歳人口が前年度比で約3.4万人減だったことから、入試の競緩和が予想されていました。3つ目は、いわゆる「新課程入試」の年の大学入試だったことです。1つ下の世代(現在の高校3年生)ら、大学入学共通テストの教科・科目の編成を始めとして、大学入がさらに変わることが予告されていました。弱気な生徒や安全に受験を終えようとする生徒の増加が予想されたため、志望校のラン

クを下げずに最後の最後まで強気にチャレンジするよう、私たちは生徒たちの背中を押し続けました。生徒たちは途中で諦めることなくそれぞれの行きたい大学を目指して全力を尽くし、強気な出願が功を奏した事例が例年以上に多くありました。

生徒たちは私たちの期待に見事に応えてくれました。今一度、生徒たちに敬意を表したいと思います。合格おめでとうございます。そして、それぞれの新生活が素晴らしいものになるように心から願っています。

年度
合格実績

国公立
45名

東京大学文科三類、東京大学理科一類、北海道大学理学部、東北大学文学部、東北大学工学部、名古屋大学工学部、群馬大学医学部医学科、防衛医科大学校医学科など

早慶上理ICU
43名

GMARCH
121名



特別進学コース(II類)

埼玉大学
教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース

その他の合格大学
津田塾大学学芸学部
文教大学教育学部
文教大学人間科学部



難関国立進学コース(I類)

東京大学
文科三類

その他の合格大学
早稲田大学文学部・文化構想学部
慶應義塾大学商学部
上智大学総合グローバル学部・総合人間科学部・文学部



難関国立進学コース(I類)

東京大学
理科一類

その他の合格大学
防衛医科大学校医学科
早稲田大学先進理工学部
東京理科大学先進工学部
慶應義塾大学理工学部

私が特別支援教育を大学で学ぼう、と決めたのは2年生の冬です。発達障害のある小学生から高校生が利用する放課後等デイサービスでのボランティアをきっかけに、障害のある子どもたちの可能性を広げる教育環境について考えたい、と思うようになったからです。

私は1年生の頃から国公立大学を志望しており、1・2年生では授業の予習や復習に加えて、英語長文やリスニングなど、主に英語の受験勉強も少しずつ始めました。また、私は通学時間が片道2時間近くかかるため、移動時間も英単語や古文単語、社会科目の暗記にあてました。3年生になってからは、共通テスト対策を中心に勉強しました。国公立大学は受験科目が多いため、効率よく学力を身につけることが大切だと思います。私は、英語長文をただ解いて終わりにするのではなく、必ず付属の音源を聞きながら繰り返し読み、速読力と同時にリスニング力も高めました。また、3年生の授業は演習が多いため、その日のうちに授業で解いた問題の復習を行い、正しい解き方を忘れないようにしました。

受験勉強をする中で、成績が伸び悩んだり、友達との差に苦しくなることはとても多かったです。しかし、勉強での不安は勉強をすることでしか解決できないと考え、3年間1日も休むことなく参考書を開きました。結果として、目標としていた国立大学に合格することができ、3年間学び続けた自分を誇りに思っています。

高校での3年間、特に3年生での1年間はとても短いです。友人との時間をしみながらも、自分が納得する進路選択ができるよう勉強面も充実させ、高校生活を後悔ないように過ごしてください。

私は前期課程で幅広い学問を学んでから後期課程で学ぶ専門分野を決めることができる東京大学のカリキュラムに魅力を感じてはいたものの、もともと別の大学を志望していました。しかし、3年生の4月に担任の先生との面談で東京大学を目指すことを決めました。

受験勉強において意識していたのは、勉強の質を高め、効率を上げることです。例えば模試の後には何ができなかったのか、なぜできなかったのかを明確にし、自分に何が必要なのかをよく考えながら勉強するようにしていました。効率よく勉強を進めることは、多くの科目をこなす上でとても重要だと思います。また、苦手科目の合間に好きな科目の勉強をしたり、疲れた時にはしっかりと息抜きをしたりして、できるだけ勉強が苦にならないように工夫していました。

入試を受けてみて、本番では独特の緊張感や焦りが生じることを痛感しました。実際に、普段であればできるような問題で失点してしまったものがありました。事前に様々な事態を想定し、それにどう対応できるか考えておくことは、不安や緊張を軽減し、当日も普段通りに近い力を発揮するために効果的だと思います。

東京大学に挑戦することができたのは、背中を押してくださった担任の先生や、これまで熱心にご指導してくださった各教科の先生方のおかげです。受験生として過ごした一年間は大変なこともありました。目標に向かって努力することのできた充実した期間だったと感じています。今後も感謝の気持ちを忘れず、学びを自分だけでなく人や社会のために生かせるよう努力していきたいです。

私が東京大学理科一類を志望した理由は、幅広い分野の知見を深め、自分の本当に興味のある分野を発見したかったからです。東京大学のカリキュラムでは、2年次までは教養学部として多岐にわたる分野の深い学修が可能であり、私に合っていると感じました。

受験にあたって意識して行った勉強は基礎固めです。東京大学の試験では基礎知識を完璧に利用する力が求められます。3年次までは授業を中心に、それと並行して自主的な演習を通じて知識の応用力を高め、定期的に模擬試験で自分の立ち位置を確認しました。勉強の仕方が正しいかの確認や、本番の状況に慣れるためにも模擬試験を多く受けることは意義深いものだったと感じます。

3年次からは共通テスト対策や過去問演習など、より本番を意識した学習を行うようにしました。特に、綿密な過去問演習は合格の鍵でした。早期から目標とする大学の試験を実際に解くことは、有効な目標設定につながります。また、全教科で満遍なく点を取れる状況にするのが理想です。そのため、復習を通して苦手分野を積極的に発見し、すぐに対策するのが大切です。

私は受験を通して、コンディションの管理も勉強と同様に重要だと感じました。ベストな状態で勉強や本番に臨むためには、心身のケアが不可欠です。十分な睡眠時間の確保やストレスの発散、そして不安や緊張の制御なども、忘れられがちですが受験生活に必要なものです。

最後に、これから受験に臨む皆さんの努力は、結果がどうであろうと決して無駄にはなりません。受験は二度と体験できない貴重な経験でした。自分自身の成長と向上を感じて、受験を楽しんでください。皆さんの未来の成功をお祈りしています。